

校内暴力、32%の急増

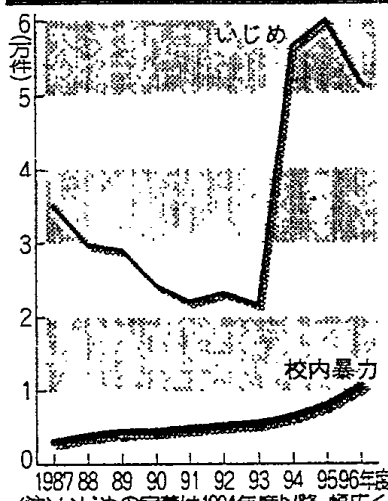
97.12.28
朝日新聞

昨年度
まとめ いじめは14%減

いじめが約五万二三千件と前年度より一四%減った一方で、校内暴力は三三%増えて過去最高の約二万二三千件となったことが二二日、文部省の一九九六年度「生徒指導上の諸問題の現状」調査でわかった。いじめの総件数が減ったのは三年ぶりだが、学校現場からは「減ったとは実感できない」という声が上がっており、文部省も「件数は依然として多く、この推移を冷静に観察すべき」としている。

(21面に関係記事)

いじめと校内暴力の発生件数の推移



(注) いじめの定義は1994年度以降、幅広くなっている

校百二十一人(前年度比八人増)、中学校三百二十七人(同三十八人増)、盲・ろう・養護学校二人(同六人減)。全体で四十人、比率で一割増えた。

校で三七%増の八千六百六十九件、高校で一六%増の二千四百六十六件で計一万五千七百二十五件。件数の内訳では、生徒間暴力が中学校五七%、高校八一%と最も多い。増加率が高いのは、中学校では対教師暴力(四八%増)、器物損壊(四一%増)、高校では器物損壊(五六%増)だった。

器物損壊による中学校の被害総額は八千七百二十万円と前年度比五三%増。一件当たりの被害額は約三万円。

では、小学校では差がなく、年齢が上がるにつれて男子が増えている。

いじめ被害が主な原因とされる自殺は中学生の二件。前年度の六件よりは減った。文部省は二件の内容を明らかにしていないが、家裁が加害生徒を保護観察処分にした昨年九月の鹿兒島県知覧町のケースと、同四月の茨城県関城町のケースとみられる。

いじめの発生件数は全体で五万五千四百四十四件で、前年度より約八千五百件減った。内訳は、小学校二万七千三百三十三件(前年度比一八%減)、中学校二万五千八百六十二件(同一一%減)、高校三千七百七十一件(同二〇%減)、盲・ろう・養護学校が百七十八件(同二二%減)とすべての種類の学校で減った。

学生で最も多いのが中学一年の約二万五千件。男女別